

## 眼で見る世界の森林 (3)



### 金鉱山と歩んだ森 (Salmon gum woodland)



西オーストラリア第二の都市 Kalgoorlie の近辺はユーカリおよびマルガの woodland となっている (星印)。この地域の年降水量は約 200 mm で赤いラテライトが地表を覆っているが、その下は硬いハードパン層あるいは花崗岩の岩盤となっており、全体に土壌は浅く、貧栄養となっている。植生は salmon gum (*Eucalyphus salmonophloia*), gimlet (*E. salubris*) などが疎林を形成し, mulga (*Acacia aneura*), myal (*A. papyrocarpa*), Casuarina obesa, ヒノキ科の cypress pine (*Callitris glaucophylla*) などが混生する。

この一帯は Goldfields と呼ばれ、金をはじめとするさまざまな鉱山が存在する。1900 年代初頭に多数の鉱山が操業を始めると周辺の森林は燃料材や坑木として大量に伐採された。1904 年における金鉱

山の年間木材消費量は約 50 万 ton, 1930 年代の年伐採量はユーカリ帯では約 36 万 ton, マルガ帯では約 8 万 ton (Kessell and Stoate 1936) と述べられている。1970 年代から鉱山のエネルギーは徐々に石油燃料に切り替えられたが、森林を伐採した跡地は鉱山労働者の食料を供給するため羊の放牧地として利用された。撮影した salmon gum の疎林は Kalgoorlie の近郊に位置し、早い時期に伐採され、比較的回復のよい二次林だと推定される (写真)。

この説明は、Kessell, S.I. and T.N. Stoate (1936): The forests of the arid southern interior of Western Australia. *Australian Forestry* 1 (2): 16-21 を主に参考にした。

(森林総合研究所 齊藤昌宏)

---

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は 25 頁参照ください。